

同窓会報



鳥羽商船同窓会

三重県鳥羽市池上町1番1号

郵便番号 517-8501

TEL 代表 鳥羽(0599)25-8000

FAX 鳥羽(0599)25-8016

振替番号 00850-6-846

創基120周年記念特集号



学校長式辞



文部大臣祝辞



式典会場全景



慰靈祭（会長追悼文奉上）



校祖直系 中井雪子さん玉串奉奠

本部報告

会長挨拶

会長 落合 弘明

日ごろは同窓会活動にご協力賜りまして厚く御礼申し上げます。

懸案の母校創立百二十周年記念行事も、好天に恵まれ無事終了することができました。

多くの会員のご協力による寄付金もほぼ目標近く達し、また百六十名を超える会員の出席で、慰霊祭・記念式典、祝賀会が予想以上に盛大に挙行できましたことを、深く感謝いたしております。

会員の皆さんの母校を支えようとするお気持ちが、関係方面にも充分周知できた立派な記念行事であつたと確信しております。

中部読売新聞、日本海事新聞にも報道されましたように、記念式典は厳粛に、祝賀会は熱気溢れる状況で、さすが百二十年の伝統ある学校であることが立証できたと自負した次第です。

同窓会としましては、母校の創立百二十周年を機会に、様々な母校の啓蒙活動を開催して参りました。

さる一〇月には、鳥羽市内の

「ハロー」催し会場において、校祖近藤真琴先生の業績評価と母校の関係についての展示を地元鳥羽市民向けに実施しました。

また、一月一〇日には、母校の創立百二十周年を記念して、「鳥羽市民招待伊勢湾クルージング」を伊勢湾フェリーとの共催で実施し、百二十年間に亘ってお世話をなった鳥羽市民に感謝の意を表しました。

全寮制が廃止され、工業系の学生も増えたことから、ともすれば評価が下がりきみの母校の現状を踏まえ、もう一度栄光ある学校として評価の高かつた往年の姿を取り戻そうと、地元鳥羽市民に対し、母校のイメージ・アップを計つたつもりです。

國立教育機関の法人化の波は容赦なく押し寄せて参ります。三重県南部に位置する唯一の國立教育機関としての母校の存在価値を維持するためには、母校と一緒にアピールを開拓する必要があります。会員の皆さんのお力添えを仰ぎます。

創立百二十周年記念式典

校長式辞

佐藤 修臣

一一月九日前十一時より、母校第二体育館において文部科学省をはじめとする関係機関及び関係企業からの来賓、同窓生、教職員、在校生合わせて七百五十名余りが出席して盛大に挙行された。

来賓や同窓生が多いことから、在校生の態度も極めて良好で、厳粛な式典が挙行されたことは何よりも喜びであった。式次第に従い約四十五分間で式典は終了した。

寄付に応募された全同窓生に対し、学校長名で招待状が発送された。

本校は、明治一四年（一八八一年）、わが国商船教育の父といわれる近藤真琴先生が故郷鳥羽の地に「鳥羽商船」として創設され、本年で百二十年を迎えることとなりました。先生は、近代日本発展の方策は海運の振興、そして貿易立国にあるが、当時のわが国の船舶の運航は、所謂外国人に頼つてゐる状況をみて、それらを日本人の手で行うためには、日本人の船舶職員の養成こそ急務であると考えられ、東京に攻玉塾の一部門として航海測量修練所を開設すると共に、郷里鳥羽に私財を投じて攻玉社分校として本校の基礎を築かされました。設立に当たっては、三重県の先生の人脈と共に、ご自身の私財、攻玉社からの助成金及び三重県からの拝借金等の他、郷里鳥羽の多くの方々からの物心両面からの援助をいただき、明治一四年八月二〇日、鳥羽町藤之郷赤崎に創立開校されたものです。

百二十年の長い歴史の間には、

様々な困難な時代がありました。先ず、多額の経費を要する商船教育にとつては、私学としての運営は困難を極め、明治二六年には生徒数の減少もこれあり閉鎖となり、二年半ほど教育が中断したことがありました。然し、地元の有志の熱意により、私立東海商船学校として明治二八年に再興され、その後鳥羽町立鳥羽商船学校、三重県立、官立と設置者が変遷しました。教職員、在校生を代表して厚く御礼申し上げます。

本校は、明治一四年（一八八一年）現在地に校舎を移し、爾來九十年間現在地において歴史を刻み、昭和二六年、学制改革により鳥羽商船高等学校、昭和四二年に至り鳥羽商船高等専門学校となり、今日を迎えた次第です。生徒数十八名で発足した鳥羽商船以降、今日迄五千五百余名の卒業生を世に送り出しております。

その間、昭和四年（一九一九年）から始まつた世界恐慌に伴う海運界の不況により地方の公立商船学校は苦境に陥り、十一校あつた商船学校が七校のみの存続、二校あつた高等商船学校も募集定員を半減するに至つております。一方、第二次世界大戦の折りには、養成定員を大幅に増員する等商船教育は常に世界規模の経済動向の大波に揉まれてきた歴史を有しております。そして、昭和五十年代後半に至り、わが国海運界の国際競争力の低下や産業構造の変革等に因り、船舶職員の需要の減少に見舞



式次第

- 一、開会の辞
- 一、國歌齊唱
- 一、校長式辭
- 一、文部科学大臣祝辭
- 一、來賓祝辭
- 一、學生決意表明
- 一、祝電披露
- 一、校歌齊唱
- 一、閉会の辭

われ、昭和六〇年には機関学科一学級を分離改組して電子機械工学科を、昭和六三年には、航海学科及び機関学科を改組し、制御情報工学科を設置し、商船学科、電子機械工学科及び制御情報工学科各四十名の編成とし、百年以上継続してきた商船教育を土台としつつも、時代の要請に応えるべく新たな高等専門学校の道を歩み、今日を迎えております。

以上のように、学校を取り巻く環境が厳しい状況が多々ありますたが、その都度郷土の方々の温かいご支援、国、県のご理解と同窓会及び学校関係者の努力により困難を克服して今日を迎えることが出来ました。ここにあらためて関係各位に深い感謝の念を捧げるものでございます。

今日、国立高等専門学校を取り巻く環境はこれ迄のものとは亦異質な面を呈し、従前のような発想では対応が困難な状況で、百二十年の伝統は伝統として内に秘め、新たな発想で対処しなければ今後の見通しは見えてこない状況と認識しております。換言すれば、伝統を創造すべく発想を転換して行かなければならぬと思います。その道はこれまで経験したこと以上に困難を伴うことが予想されますが、二十一世紀の冒頭に百二十一年目を踏み出すに当たって、教職員・在校生一同決意を新たにして一層の努力を傾注する

所存です。

終わりにのぞみ、創基百二十周年記念式典を挙行することが出来ましたのは、ひとえに皆様方の心からのご支援の賜と心から感謝いたしますと共に、今後とも変わらぬご鞭撻、ご協力を願いして、式辞いたします。

文部科学大臣祝辞

遠山 敦子

このたびの創基百二十周年、誠におめでとうございます。

鳥羽商船高等専門学校は、明治十四年八月に創立された鳥羽商船養に始まり、以来、幾多の変遷を経て、昭和四二年六月には、我が國海運界のめざましい進展に対応すべく、航海学科及び機関学科の二学科を有する商船高等専門学校へと発展いたしました。

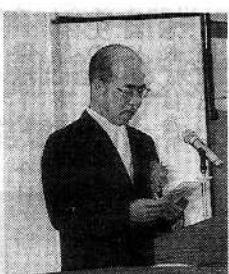
その後、時代や社会のニーズの変化に的確に対応して学科の新設・改組などの整備充実に努められ、現在では、商船学科、電子機械工学科、制御情報工学科の三学科で、六百名の学生を擁する高等教育機関となっております。

学校創設以来多数の有為な人材を輩出し、各界の高い評価を得ていることは、御同慶の至りであり、今日に至るまでの歴代校長をはじめ、教職員並びに卒業生の皆様方の御努力と、三重県、鳥羽市をはじめとする地元の関係各位や海運

業界等からの終始変わらぬ御支援に対する次第でございます。

国専協会長祝辞

生越 久靖



代理 小崎岐阜工業高専校長

本日ここに、鳥羽商船高等専門学校創基百二十周年記念式典が挙行されるにあたり、国立高等専門学校協会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。

鳥羽商船高等専門学校は明治四年八月に、近藤真琴先生により海洋国日本の将来を洞察し、鳥羽の地に創立した鳥羽商船養に始まります。その後、国立の商船学校となるなど幾多の変遷を経て、昭和四二年六月、我が國海運界のめざましい進展に対応すべく、現在の商船高等専門学校に発展され、今日に至っております。

この間百二十年にわたり充実した教育の下に多くの優れた船舶職員を世に送り出すとともに、昭和六十年代には、産業技術の高度化と情報化社会に対応して電子機械工学科と制御情報工学科を設置されなど、時代の要請に応えて有識者がなければならぬと思います。その道はこれまで経験したこと以上に困難を伴うことが予想されますが、二十一世紀の冒頭に百二十一年目を踏み出すに当たって、教職員・在校生一同決意を新たにして一層の努力を傾注する

発展に多大な貢献をしてこられました。

このように長い歴史と伝統の下に今日の隆盛を築かれました鳥羽商船高等専門学校が、本日創基百二十周年記念式典をお迎えになつたことは、誠におめでたく心からご祝意を申し上げる次第であります。

鳥羽商船養から今日の商船高等専門学校に至る百二十年の道のりは、栄光の歴史であると同時に苦難の歴史でもあつたことと存じます。

教職員をはじめ、同窓会、地元並びに各界の皆様方の終始変わらぬご尽力の賜であり、そのご労苦に對してここに深く敬意を表するものであります。

今日、科学技術の進歩、産業構造の変化、情報化・国際化の進展等、高等専門学校を取り巻く環境は大きく変化しており、また、その結果の一面向として、我が国の富を築いてきたものづくり産業の空洞化が生じ、ものづくり精神の重要性が改めて強調される状況にもなつております。

国立高等専門学校協会におきましても、高専こそが、ものづくりの心と教育を行い、ものづくりのための人作りを行う場であるとの思いを強くしているところであります。

百二十年の伝統を持つ鳥羽商船

高等専門学校が、その特色を一層發揮され、二十一世紀において個性輝く高専として大きく羽ばたかることを祈念するものであります。

最後に、本日ご列席の皆様におかれましては、鳥羽商船高等専門学校に対し、引き続き暖かいご支援を賜りますようお願いして、お祝いのご挨拶といたします。

市長祝辞（要旨）

井村 均



本日、鳥羽商船高等専門学校が創立百二十周年を迎えられましたことを、市民を代表して心からお祝い申し上げます。

本校を設立した近藤真琴氏は、私たち市民にとって誇りであり偉人であります。海に囲まれた日本を、海運業を盛り立てることで発展させるという先見の明をもつてここ鳥羽の地に、商船学校をつくり、多くのすぐれた人材を社会に送り出しました。

現在では、工業系の学科が併設され、男女共学になるなど幾多の変遷はありました。百一十年も

の長い間、輝かしい伝統を守り続けてこられた学校関係者の皆様のご努力に対し、深く敬意を表します。

先日、豪華客船「飛鳥」の田中さんという人とお会いし、話をす

る機会がありました。この方も本校出身者として、ご活躍されています。その中で、鳥羽は観光地としてすばらしいだけでなく、関東や関西方面から出港する船の寄港

地としてちょうどよい場所であり、魅力いっぱいの地であるとのおほめをいただきました。鳥羽市では、「飛鳥」のような二万トン級の船が着岸できるような港づくりを現在進めているところで、た

いへんうれしくお話をお聞きしました。

二十一世紀に入り、時代の流れも大きく変わろうとしています。が、今後ともこの新しい時代を積極的に切り拓き、国際社会の中で信頼されるような技術者の育成を

ご期待申し上げますとともに、鳥羽商船高等専門学校のますますのご発展を祈念いたしまして、私のお祝いのことばといたします。

本校が創立された明治一四年は、維新の混乱を経て西南の役を乗り切り、まさに開国進取、富国強兵を国策として世界に躍進する時代でした。本校の歴史は海運の成長政策並びに技術革新に対応させたため「商船高校の教育内容を充実し、専科大学もしくは短大に

祝辞

全日本船舶職員協会
会長 川村 起



本日、国立鳥羽商船高等専門学校の創基百二十周年記念式典に臨み、社団法人・全日本船舶職員協会を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

すでに各界の方々が述べておられますので、私はここで本校創立以来の輝かしい歴史的足跡には触れませんが、伊勢湾の入口に位置し、多くの島に囲まれ遙かに世界を見渡す鳥羽の地を訪れ、校内に厳かに配置される謂れる慰靈碑・記念碑などに接し、人為を超える歴史の重さと、先輩諸兄の勇壮な息吹を感じ、この佳き日に参列し得た幸運に感動いたしております。

本校が創立された明治一四年は、維新の混乱を経て西南の役を乗り切り、まさに開国進取、富国強兵を国策として世界に躍進する時代でした。本校の歴史は海運の成長政策並びに技術革新に対応させたため「商船高校の教育内容を充実し、専科大学もしくは短大に

策のもと、単なる産業人、企業人としてではなく、世界列強に対峙し得る海国日本の先駆けとし国家

发展に貢献されました。多くの方々が数次に亘る世界規模の大戦や紛争に巻き込まれる悲惨に遭遇いたしております。わが国の今日は、諸先輩の苦闘を礎に築かれたものであります。

私どもの協会は、昭和五年に至り全国で十一となつた商船学校の卒業生を母体として十一会という名称で結成され、以降七十年の年月を刻んで参りましたが、創設当時の歴史には、過酷な船務の傍ら同士を求めて駆けめぐる回った本校先輩の方々も多数記録されており、協会の今日も、また先輩諸兄の遺産であります。

全国十一の商船学校は、海運界の不況や財政難により廃校や統合を余儀なくされ、大戦後間もなくにして現在の五校に収斂されましたが、これら五校の卒業生は、國家再建の使命に燃え、無冠の外交官として七つの海に雄飛し、世界規模では常に戦火や紛争の絶えない環境下で、今日の新しい日本の構築に寄与しました。私どもは歴史の教訓として、これら先人の苦闘に想いを馳せ、感謝の気持ちを忘れてはなりません。

昭和三二年九月、当時の私ども十一会の小山亮会長は、高度経済成長政策並びに技術革新に対応させるため「商船高校の教育内容を充実し、専科大学もしくは短大に

昇格せしむるべきである」と提言し、政府および関係方面への活発な陳情活動に取りかかりました。

この構想は以降、関係者一丸となり粘り強い運動により昭和四一年八月に至り商船高専への昇格方針が提示され達成されますが、これを成功に導いた大きな要因は、

本校をはじめ、それぞれの地元での燃え盛る熱意とその結集でありました。ここ由緒ある鳥羽の地で晴れの昇格を果たした諸先輩の思いも決して忘れることができません。

本校をはじめ、それぞれの地元での燃え盛る熱意とその結集でありました。ここ由緒ある鳥羽の地で晴れの昇格を果たした諸先輩の思いも決して忘れることができます。

このようないも決して忘れることができます。

空洞化現象を引き起こし、雇用機会が海を越え始めました。一方、商船高専ですが、その後も決して安泰ではありませんでした。繰り返される海運界の不況は、やがて

少子化傾向の高まりの中で科学技術の進歩・情報化・国際化の進展等専門学校を取り巻く環境は、大きく変わりつつあります。各商船

高専はこれら社会の要請に応じ学科の改組・新設を順次進め、成長を続けましたが、最近になつて行政改革の一環とする新たな課題

として、各種教育機関の独立行政法人への移管が俎上にあがつまいました。既に旧運輸省所管の船員教育三機関は、本年四月より

平成一六年度には法人化される見通しであります。この課題は私ども

も協会としても、以下の最大の懸案事項であります。本校創設の先達が喝破された通り、小島国日本の方途は海運振興貿易立国にあります。その原則に則り本問題については官産学一体となつて今後、多角的な検討が加えられ、しかるべき結論を導き出して当然と思考します。私ども協会は、海洋・日本の貿易路を誰が担い誰が護るのか、その国家課題と教育をどう位置づけるか、というわが国民の死活に直結する重要なテーマを基軸に据え、各商船高専と共に取り組む所存ですが、幸いなことに各学校には、極めて強い関係自治体・同窓組織・後援会などの終始変わらぬご支援とご協力が、背景に厳として存在しており、誠に力強い限りであります。高いところから極めて失礼ですが、ご臨席の皆さん、やがて明らかとなつてしまります。本校の新たな船出に、どうか是非ともご理解とご支持をお寄せください。よろしくお願いいたします。

本校にありましても、本日のこの記念すべき日を契機といたしまして、輝かしい伝統とその実績への誇りに立脚し、主体性、創造性に富んだ人材を育成し、特色ある高等教育機関として今後より一層、社会的要請に応えて頂きたい存じます。

かつて本校創立百周年の折、その記念事業後援会長を務められた私どもの元会長、故・和田春生さんは、「百年の歴史に輝く本校に

も協会としても、以下の最大の懸案事項であります。本校創設の先達が喝破された通り、小島国日本の方途は海運振興貿易立国にあります。その原則に則り本問題については官産学一体となつて今後、多角的な検討が加えられ、しかるべき結論を導き出して当然と思考します。私ども協会は、海洋・日本の貿易路を誰が担い誰が護るのか、その国家課題と教育をどう位置づけるか、というわが国民の死活に直結する重要なテーマを基軸に据え、各商船高専と共に取り組む所存ですが、幸いなことに各学校には、極めて強い関係自治体・同窓組織・後援会などの終始変わらぬご支援とご協力が、背景に厳として存在しており、誠に力強い限りであります。高いところから極めて失礼ですが、ご臨席の皆さん、やがて明らかとなつてしまります。本校の新たな船出に、どうか是非ともご理解とご支持をお寄せください。よろしくお願いいたします。

本校にありましても、本日のこの記念すべき日を契機といたしまして、輝かしい伝統とその実績への誇りに立脚し、主体性、創造性に富んだ人材を育成し、特色ある高等教育機関として今後より一層、社会的要請に応えて頂きたい存じます。

かつて本校創立百周年の折、その記念事業後援会長を務められた私どもの元会長、故・和田春生さんは、「百年の歴史に輝く本校に

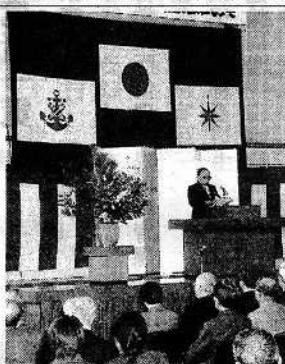
も協会としても、以下の最大の懸案事項であります。本校創設の先達が喝破された通り、小島国日本の方途は海運振興貿易立国にあります。その原則に則り本問題については官産学一体となつて今後、多角的な検討が加えられ、しかるべき結論を導き出して当然と思考します。私ども協会は、海洋・日本の貿易路を誰が担い誰が護るのか、その国家課題と教育をどう位置づけるか、というわが国民の死活に直結する重要なテーマを基軸に据え、各商船高専と共に取り組む所存ですが、幸いなことに各学校には、極めて強い関係自治体・同窓組織・後援会などの終始変わらぬご支援とご協力が、背景に厳として存在しており、誠に力強い限りであります。高いところから極めて失礼ですが、ご臨席の皆さん、やがて明らかとなつてしまります。本校の新たな船出に、どうか是非ともご理解とご支持をお寄せください。よろしくお願いいたします。

本校にありましても、本日のこの記念すべき日を契機といたしまして、輝かしい伝統とその実績への誇りに立脚し、主体性、創造性に富んだ人材を育成し、特色ある高等教育機関として今後より一層、社会的要請に応えて頂きたい存じます。

かつて本校創立百周年の折、その記念事業後援会長を務められた私どもの元会長、故・和田春生さんは、「百年の歴史に輝く本校に

中部読売新聞

2001年(平成13年)11月10日(土曜日)



式典であいさつする佐藤校長

あす「海祭」

創立120年、750人祝う

鳥羽商船高専、同窓生も出席

鳥羽市立の國立鳥羽商船高等専門学校の創立百二十周年記念式典が九日、同窓会館で開催され、鳥羽市長のほか、教職員と在校生、同窓生約七百五十人が出席した。

佐藤修三校長は「これまでの伝統と美徳を踏まえつつ新たな発想で対処することが必要」とあいさつ。

同校は一八八八年(明治十四年)八月、旧鳥羽藩士近

科の三学科がある。

式典ではある十一日前

九時から午後三時まで「海

祭」を催す。練習船「鳥

羽丸」の一般公開や、内燃

機関実験室、操舵シミュレ

ーターの公開、ロボコン展

祝いの言葉をいたしました。

記念式典において、同窓会長の祝辞がないのはおかしいという意見が出席会員から出ました。それにつきましては、全船協より「弓前商船」の「創基一〇〇周年記念式典」には、会長祝辞の要請があるが、「鳥羽商船」の「創基一二〇周年記念式典」には、会長祝辞がないのかと連絡があつたことから、式典の時間との兼ね合いを考慮し同窓会長が祝辞を辞退されたことを了承下さい。

日本海新聞

2001年(平成13年)11月15日(木曜日) (6)

格 7,500円、消費税 375円

同校ではある十一日前

九時から午後三時まで「海

祭」を催す。

練習船「鳥

羽丸」の一般公開や、内燃

機関実験室、操舵シミュレ

ーターの公開、ロボコン展

示などもある。

式典ではあ

ります。

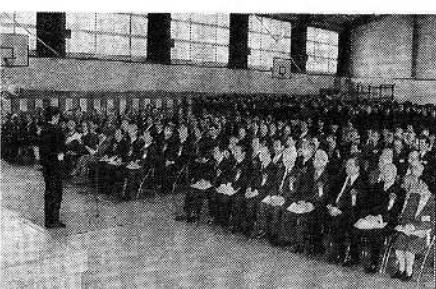
式典ではあ



来賓席



同窓生一同



学生決意表明

出席者一覧

一、来賓

☆は式典のみ出席
文部科学大臣代理 専門教育課
☆佐久間企画官
☆八田高専係長

中部運輸局鳥羽海運支局長
★杉浦 幸雄

鳥羽海上保安部長 ★小川 泰治

独立行政法人航海訓練所理事長
安本 博通

衆議院議員 藤波孝生代理
貞末多賀有

三重県教育長代理 学校教育課長
★小林 寿一

鳥羽市長 井村 均

鳥羽市教育長 川村 光徳

鳥羽商工会議所 会頭
★中村 幸昭

神戸商船大学長代理 副学長
菅原 康和

長岡技術科学大学長 服部 賢

三重大学長代理 副学長
西垣 和

鈴鹿工専学校長 勝山 正嗣
鈴鹿工専事務部長 松本 進

岐阜工専学校長 小崎 正光
岐阜工専事務部長 登り停哉

富山商船高専学校長 吉田 順也
富山商船高専事務部長 原 國生

弓削商船高専学校長代 小川量也
弓削商船高専事務部長 原 國生

大島商船高専学校長 和氣 博嗣
大島商船高専事務部長 原 國生

広島商船高専学校長 大隅 横山
広島商船高専事務部長 登り停哉

弓削商船高専学校長代 小川量也
弓削商船高専事務部長 原 國生

学校法人攻玉社学園理事長
川村 一赳

元事務部長
前川 一郎

元事務部長
宇佐美政弘

石原 一彦

校租関係 中井 雪子

旭運輸株總務部 鈴村 雅明

日本郵船(株)名古屋支店長代理
山本 隆史

(株)商船三井名古屋支店首席海務監
八田 高専

中部運輸局鳥羽海運支局長
★中塙 俊嗣

★杉浦 幸雄

八馬汽船(株)
新日本海フェリー(株)船員部長
★杉下 新人

太平洋フェリー(株)水谷 重暉

全日本会員組合組合長代理 大木 明

三菱鉱石輸送(株)船舶部次長
富岡栄一郎

伊勢湾フェリー(株)取締役社長
坪井 宏

四日市港管理組合海務課長
中西 新治

松阪精密(株) ☆新田 利豪

代表取締役 濱口 慶一

(株)コスモス・コーポレーション
代表取締役 濱口 慶一

ル管理部部長 福村 伝史

歴代校長 飯島 幸人

名譽教授 阪本 幸男

松本 昭一

小柳 柴田 栄

坂口 幸男

佐藤 古妻

佐藤 井上

中野 三二

高橋 仁

清水 田中

飯島 田中

長谷川 岩崎

廣瀬 田中

春雄 田中

吉田 上山

和氣 片山

勝也 柳谷

秀夫 桑嶋

秀夫 奥利

奨学会後援会会長 西村 輝昭

副会長 ☆水谷 和美

監事 辻井 清

航海学科 和田 道夫

青木留治郎 荒川 典彌

和田 道夫 荒川 典彌

松澤 小原 青木留治郎

坂下 岩見 荒川 典彌

安伸 鷲見 荒川 典彌

好明 啓吉 荒川 典彌

博 照夫 荒川 典彌

坂下 告一 荒川 典彌

安伸 告一 荒川 典彌

好明 啓吉 荒川 典彌

博 照夫 荒川 典彌

坂下 告一 荒川 典彌

安伸 告一 荒川 典彌

好明 啓吉 荒川 典彌

博 照夫 荒川 典彌

坂下 告一 荒川 典彌

安伸 告一 荒川 典彌

好明 啓吉 荒川 典彌

博 照夫 荒川 典彌

坂下 告一 荒川 典彌

安伸 告一 荒川 典彌

好明 啓吉 荒川 典彌

博 照夫 荒川 典彌

坂下 告一 荒川 典彌

安伸 告一 荒川 典彌

好明 啓吉 荒川 典彌

博 照夫 荒川 典彌

坂下 告一 荒川 典彌

安伸 告一 荒川 典彌

好明 啓吉 荒川 典彌

坂下 告一 荒川 典彌

好明 啓吉 荒川 典彌

佐藤 待井 信一

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

梅村 伸雄

江頭 昭雄

荒井 恒靖

上山 浩

松本 暢生

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

梅村 伸雄

江頭 昭雄

荒井 恒靖

上山 浩

松本 暢生

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

梅村 伸雄

江頭 昭雄

荒井 恒靖

上山 浩

松本 暢生

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

梅村 伸雄

江頭 昭雄

荒井 恒靖

上山 浩

松本 暢生

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

佐藤 待井 信一

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

梅村 伸雄

江頭 昭雄

荒井 恒靖

上山 浩

松本 暢生

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

梅村 伸雄

江頭 昭雄

荒井 恒靖

上山 浩

松本 暢生

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

梅村 伸雄

江頭 昭雄

荒井 恒靖

上山 浩

松本 暢生

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

梅村 伸雄

江頭 昭雄

荒井 恒靖

上山 浩

松本 暢生

磯村 照夫

川邊 恒二

三本松 昇

S S 22	S S 21	S S 21	S S 21	S S 21	S S 19	S S 18	S S 18	S S 16	S S 16	S S 16	S S 13	S S 9	S S 8	S S 54	S S 50	S S 49	S S 48	S S 48				
大塩 重夫	石原 久治	向井 源一	細井 谷友也	島上 良一	磯崎 久保田	東爪 浅井	山下 佐八	橋川 佐八	斎藤 光雄	川村 一男	上村 賢次	高梨 素直	和泉 憲次	安田 太津造	秋山 末雄	尾崎 幸平	山本 勇	山下三樹夫	北岡 万二	神崎 伸一	和田 秀樹	野村 錦生
水谷 青木	古川 茂生	増田 小林	森田 利康	森脇 異	千々波 天信	長澤 秀樹	飯山 嘉昭	斎藤 恒男	金澤 隆	田中 廣行	大下 倉怜三	堀三矢之助	水谷 柴原	秋田 柴原	黒田 康茂	秋田 欽哉	山本 善計	西井 逸郎	竹田 純三	杉本 忠明	大橋 秀章	和田 秀樹
森下 幸潔	西村 孝友	小出 政夫	明 明	智洋	智洋	幸平	耕三	幸平	幸平	幸平	幸平	幸平	幸平	幸平	幸平							

慰靈祭・合祀祭

一一月九日午前九時三〇分より、記念式典に先立つて校祖「近藤真琴」先生記念碑前広場において、同窓会主催の「慰靈祭・合祀祭」が、鳥羽琴平宮宮司により厳粛に挙行されました。

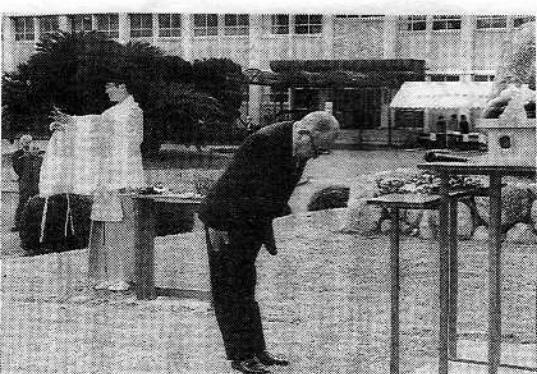
今年は校祖の生誕一七〇年記念もあり、また母校の創基一二〇周年記念ということから、校祖の直系である「中井雪子」様にも



お 扱 い



祝詞奏上



遺族(斎藤希一会員)参拝

学生代表一名も参列し、母校が二〇年間続いたことに對する、校祖、物故会員、及び物故教職員のご加護に感謝し、新たに物故会員及び物故教職員一二六名の合祀を行いました。

落合会長が校祖をはじめ物故会員及び物故教職員に対し、追悼文を奏上、落合会長、学校長、中井雪子様、遺族代表として斎藤希二会員、学生代表の順で玉串を奉奠し、約四五分間で終了しました。好天により、美しく整備された庭園の雰囲気は非常に良いものがありました。

同窓会員約八〇名と学校長及び

大貫 信彦 原 嘉明
藤井 俊明 忠根
木俣 良雄 豊島仁
田中 節男 田中
山下 文徳 山下
竹川 俊幸 大貫
溝井 昇 大貫
世宮 利郎 田中
江崎 隆夫 山下
長谷川 真佐雄 大貫
岡本 楠清 大貫
伊藤 幸雄 大貫
佐藤久米雄 大貫
☆S 49 ☆S 49 ☆S 49
西井 規雄 中村 俊輔 大貫
天野 清文 大貫

お 扱 い

祝詞奏上

祝賀会

S 41 秋山 錠次
 S 53 花村 次規
 S 59 大竹 敦
 S 62 野口 信彦
 H 8 宮腰 直樹
 卒業年次
 H 4 田中 伸一

電子機械工学科（一名）
 記念式典終了後、鳥羽随一の景勝地に建つ「鳥羽国際ホテル」において祝賀会が開催された。二〇名を超える参加者を如何に迅速に母校から移動するかについて苦心した。ホテル所有のバス二台と観光バス二台をチャーターし、同窓生の移動に備えた。また母校側で来賓用に、バス一台を用意し、短時間の移動に成功した。

祝賀会はコンベンション・ホール「海城」で、今回は年配者を考慮し、全員にテーブル席を用意した。来賓用、同窓生用に区分し、同窓生は学年となるべく同じか、接近するよう配分するのに苦心した。直前の欠席も数名あり、そのため調整が難航した。受け付けの主席を明示し、混乱を避ける工夫を試みたのでスムーズに着席が可能であった。

創基一〇〇周年の際の祝賀会が、暗い体育館で、何の音楽もな

しで実行されたことを反省して、

コンパニオンを多数用意し、入場時にはピアノ演奏を行い、ウエルカム・ドリンクとしてシャンパンを配布し、優雅な雰囲気を演出した。

二一六席は満杯で、まさに会場一杯という感じであった。当日は日本最大のクルーズ船「飛鳥」も

目の前に停泊しており、祝賀会の会場としては最高の状況であつた。

総合司会をハッピー・プロデュースの「前田薰」さん、ピアノ演奏を「桑原京子」さんに依頼した。

予め本部で用意したシナリオに従つて、祝賀会は進行され、落合会長の歓迎の挨拶、母校の親校にあたる石原「攻玉社学園」理事長のユーモア溢れる祝辞に会場が湧いた。

次いで恒例の「鏡割り」を行い、学校を代表して佐藤校長、航海学科を代表して和田顧問、機関学科

を代表して高山顧問にご足労をお掛けした。なお乾杯の音頭は千々波副会長にお願いした。当初予定していた下村常任顧問が発熱のため欠席となり、急遽千々波副会長にお願いした次第です。

イベントとしては、鳥羽に伝わる「九鬼水軍太鼓」の勇壮な演奏を始めとし、イルージョン・マジック「将魔」による数々の不思議の演出、そしてトリとして「天馬

鈴若とその一味」による賑やかな

コンパニオンを多用意し、入場時にはピアノ演奏を行い、ウエルカム・ドリンクとしてシャンパンを配布し、優雅な雰囲気を演出した。

なお、ショウの繋ぎには、ピアノ演奏が続けられたので、会場に和やかな空気が流れた。

落合会長歓迎の挨拶

や同窓生さらには教職員のご招待がむずかしいところであります。

本日は定員一杯の二一六席が用意されております。

なお、ショウの繋ぎには、ピアノ演奏が続けられたので、会場に和やかな空気が流れた。

本日は私共の母校鳥羽商船高等専門学校の「創基一〇〇周年記念式典」にご臨席賜りまして誠に有難うございました。ご来賓の皆様には金曜日という一番忙しい日に迷惑をおかけ致しまして申し訳なく思っております。また、同窓生の皆様には、今回の記念事業のために多額の寄付金をお寄せ賜りました。

同窓生名で同窓生に対しても募金を要請を行なったことにあります。今年は近藤先生の誕生

式典へのご臨席に対しましても厚く御礼申し上げます。

従来は、記念式典に引き続いて

祝賀会を学内で開催するのが慣習でありましたが、今日の社会情勢及び経済情勢を考慮しますと、週

に学内で「酒食」を供するのは如何なものかなという疑問が生じます。

まして、下手をすると「市民オン

ムズマン」の標的に成りかねない

ことから、祝賀会の会場をあえて

学外に移した次第です。

ここ「主水岬」は、鳥羽湾が一望できる景勝地でありまして、その昔、校祖「近藤真琴」先生もしばしばこの地にお立ちになつて、「風待ち」のため停泊中の多くの江戸行きの帆船をご覧になつたという言い伝えも考慮いたしました。

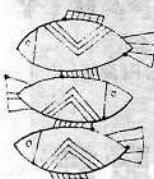
迷はテロの恐怖と共に世界的に広がっています。日本海運の今後の展開も予想は非常に困難な状況です。

しかし、日本が島国である以上

として、食料自給率が四〇%を切っている状況から、如何なること

があつても日本には船が必要です。現在は船員費の面で国際競争

力を失っている感がありますが、



祝賀会の設営に関しては、本部の中村理事が、またイベント（設営）に関しては、森理事が担当いたしましたことを報告します。

この「主水岬」は、鳥羽湾が一望できる景勝地でありまして、その昔、校祖「近藤真琴」先生もしばしばこの地にお立ちになつて、「風待ち」のため停泊中の多くの江戸行きの帆船をご覧になつたという言い伝えも考慮いたしました。

迷はテロの恐怖と共に世界的に広がっています。日本海運の今後の展開も予想は非常に困難な状況です。

しかし、日本が島国である以上として、食料自給率が四〇%を切っている状況から、如何なること

があつても日本には船が必要です。現在は船員費の面で国際競争力を失っている感がありますが、

開発途上国の人件費もいずれ上昇することは間違ひありません。やがて国際競争力も回復することも期待できます。

「鳥羽商船は健在なり」とアピールする必要があります。本日多数の同窓生が母校の創基一二〇周年記念式典に出席されたこの事実は、「鳥羽商船は健在なり」という何よりの証明になるものと思われます。今後母校を取り巻く環境に対処して、母校を全面的にバッカアップする同窓会活動を展開して行く方針を固めています。同窓生の皆さんの一層のご支援をお願い申し上げます。

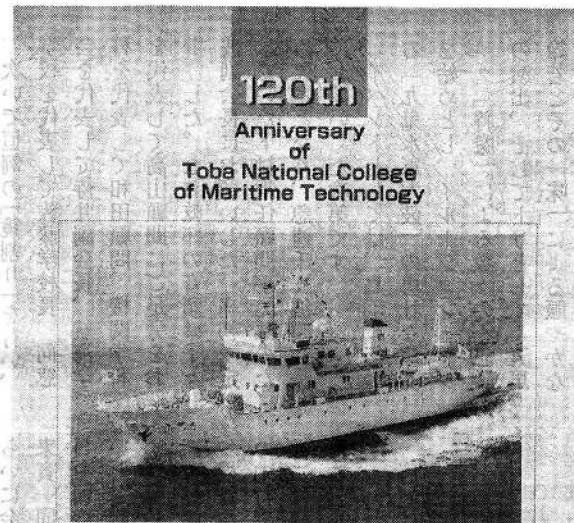
本日はイベントもいろいろと用意されています。地元鳥羽に伝わる「九鬼水軍太鼓」、イリュージョン・マジック「将魔」そして賑やかに「天馬鉢若とその一味」ショウと続きます。お飲物も十分用意されており、時間の許す限りごゆっくりお楽しみ下さいます。ようお願いいたしまして歓迎のご挨拶とします。ありがとうございました。

祝賀会祝辞（要旨）

攻玉社学園理事長
石原 一彦

「攻玉社学園」理事長の石原です。

私も昭和一七年に「攻玉社学園」を卒業された「石原」という詩人の「いまの時代をみんなで生きよう」という記事が掲載されており



鳥羽商船高等専門学校創立120周年記念祝賀会

CELEBRATION PARTY

開催日：平成13年11月9日（金）
場所：鳥羽国際ホテル南館6F「海城」

主催

鳥羽商船同窓会

在川崎港に練習船の「日本丸」が入港しており、「鳥羽商船」の学生さんが二〇名ほど乗船されており、女性も含まれているそうです。が、「大変礼儀正しい」といつておられました。

あさつて「鳥羽商船」の「創基

一二〇周年記念式典」に行くと言いますと、「ぜひそう言って紹介して下さい」と言われました。「攻玉社」の校訓に合っていると大変喜んでいる次第です。これで七つのお目出度い話がまとまりましてまことに喜ばしく思います。

「攻玉社学園」は再来年「創立一四〇年」を迎えますのでその準備を始めておりますが、学校の歴史が古いことは、大変な誇りであります。

「記念式典」における学生の立派な「決意表明」を拝聴しまして、「鳥羽商船」の将来も非常に明るく、未来永劫に発展することが期待されました。校歌にもありますように、水平線を超えて航海することは、「近藤先生」の測量学、航海学に通ずるところであります。

「鳥羽商船」のますますの発展をお祈りしまして、私のお祝いの言葉とします。

（23・26ページに続く）

今は一一月でありますから

「七・五・三」にちなんで、もう

三つの慶事が重なることになりま

す。これは三重県という地名にかかわるよう思われます。大変喜ばしいことあります。

先日「読売新聞」の「編集手帳」という欄に、昭和八年に「攻玉社」を卒業された「石原」という詩人の「いまの時代をみんなで生きよう」という記事が掲載されており

かわるよう思われます。大変嬉しいことあります。

その上今年は「近藤 真琴」先生の生誕一七〇年に当たりまして、大変三つの慶事が重なることになります。

その上今年は「近藤 真琴」先生の生誕一七〇年に当たりまして、大変三つの慶事が重なることになります。

鳥羽商船

明治の教育界先達 校祖 近藤 真琴翁生誕一七〇年記念

皆さんと共に歩んで一〇年

少し長めであるが、表題のよう

な展示会を、一〇月十六日から二

二日の一週間、鳥羽市内「ハロー」

催し場において、同窓会主催で開

催した。

本部の松本暢生理事のお骨折り

により実現したもので、本部では

学内に展示してある資料を借り出

したほか、落合会長が、「海友」（明

治三二年発刊の母校の学校だより

のようなもの）等古き資料をもと

に町立時代の母校の模様や地元鳥

羽との関係についてのパネルを作

成された。

また、日本を代表するクルーズ客船の大型写真を展示し、市民の関心を高めることも試みた。

学内には前飯島校長時代に整備

された、校祖に関する資料がパネ

ル化されおり、今回非常に役立

った。これらの資料の展示場への

搬入及び撤去には、本部事務局の

中村、鈴木、出江理事のほか、本

部の落合会長、斎藤副会長、松本

理事、秋田会員らの協力を得た。

なお、展示会場の開催時間は午

前一〇時から午後八時までと長い

制で対応に当たった。

一日平均入場者は五〇名で、比較的年配者の関心が高い傾向が見られた。八〇代の入場者から、自分の家は昔鳥羽商船の「公認下宿」をしていたとか、現在母校内にいる近藤先生記念碑が鳥羽市内にあつた当時には、小学校に通う子供が、必ず碑の前でお辞儀をして通る習慣があったと教えられた。「すごく偉い先生である」と教えられていたそうで、昔の教育を見なおす必要があるようと思われる。

近藤先生の偉業について、最近の鳥羽市民が殆ど関心がないのが極めて残念で、市が啓蒙活動を開してほしいものである。

母校が町立時代には、学生が町の儀仗隊を勤めていたことが古い資料から発見され、「日露戦争」当時は、戦死者の「町葬」に際して「陸戦隊」を構成して、棺を護ったと報告されている。

また、火災が発生すると、「手押しポンプ」時代であり、若い人手が必要なため、母校の学生が借り出されたことも記録されている。母校と鳥羽市民の関係は非常に密接であったことが分かる。

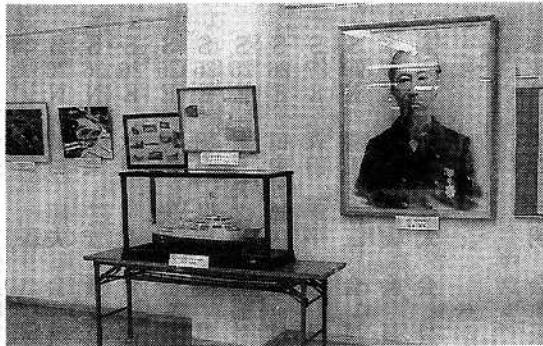
国立アメリカ商船大学の所在地、キングス・ポイントの駅裏には大きな看板があり、Mother town of U.S. Merchant Marine Academyと掲示されている。

キングス・ポイントの市民が国立アメリカ商船大学の所在地であることを大変誇りに思っているように、鳥羽市民が母校の存在を誇

りに思うような学校に成長してもらいたいと願っている。今回の展示の狙いは、鳥羽市民と母校の関係をもっと強めるところにある。

今回の展示に際し、左記の会員にご協力得た。

S 16 E	尾崎 幸平	顧問
S 26 N	斎藤 希二	会計監査
S 22 N	斎藤 一郎	常任顧問
S 27 E	斎藤 隆	副会長
S 26 E	秋田 清	会員
S 27 E	斎藤 隆	会員
S 27 E	森田 幸平	会員
S 29 N	漆山 順三	会員
S 39 N	中村 武史	会員
S 41 E	田中 節男	会員
S 48 N	鈴木 秀司	会員
H 3 M	出江 幸重	会員
		理事
		事務



校祖と鳥羽丸模型



展示場全景

初代校長の偉業たたえる 同窓会創立120周年で資料展

鳥羽商船高等専門学校創立110周年記念 伊勢湾クルージング



平成二十三年九月一七日に開催された、「第一回支部長・本部理事」会議において、母校の創立一一〇周年に際し、長年お世話をなった「鳥羽市民」に対し、何かお礼のイベントを行なうという意見が出て、「鳥羽市民招待伊勢湾クルージング」計画が承認された。

招待の趣旨から、未成年者を除く(幼稚園は別)し、年配の鳥羽市民を対象とした募集要項を作成した。この計画には伊勢湾フェリーの協賛申し出があり、担当者としてS 42 N の金田護理事が就任されたことから、計画は大変スムーズに進行した。

但し、市役所との連絡にやや不都合があり、市民への周知に若干の遅れがあったことは否めない。

そこで、販売部数が一番多い「中日新聞」に折り込み広告を入れると共に、下村甚一郎常任顧問のお骨折りにより、町内会を通じての周知も行なった。また「市民広報」にも掲載してもらつこととした。

実施計画は左記のとおりである。

日 時 平成二十三年一月一〇日(記念式典・祝賀会の翌日)

八時四十五分集合、九時乗船、九時一五分出港、

一一時三〇分帰港

周航海域 坂手島の南を通過し、菅島水道を抜けて神島付近で北上、答志島の北を西進し、二見沖で

南下、桃取り水道を経て鳥羽帰港という計画。

イベント 乗船券番号による抽選会及び「剣山 啓助」カルテットによるバンド演奏(一時間)

配布品 軽食(寿司)、飲み物(日本酒、お茶)

募集方法 往復ハガキにより同窓会本部に申し込む。

対象 鳥羽市在住者

応募人員は二三三名となり、申し込み者全員を受け付けることができた。なお、当日の天候を考慮

し、翌日を予備日とし、実施の有無についてはCBCラジオで周知するよう手配した。また、保安要員として、本部事務局員を除く理事及び会員の協力を得た。本部事務局員は「海学祭」のため、協力不可能という理由があつた。

参加者名簿の作成には、秋田清会員の協力を得たが同窓会として初めてのイベントであり、準備は相当気を使つたのは事実である。なお、本イベントの総責任者として、斎藤隆副会長をお願いした。

当日は天候に恵まれ、船酔いする人も殆どなかつたのは幸いであった。クリスマス・ディナー等豪華商品が当る抽選会に一喜一憂保安要員として左記の役員の協力を得ました。

総括
S 26 N 磯村 照夫 会員
S 26 E 秋田 清 会員
S 26 E 黒田 俊夫 会員
S 26 E 田島 弘成 会員
S 26 E 堀三矢之助 支部長
S 26 E 田中 健彦 会員
S 27 E 森田 幸平 会員
S 29 N 漆山 順三 会員
S 63 E 上村 健太 会員
他に
S 22 N 落合 弘明 会長
S 22 N 斎藤 希一 会計監査
総計 二一名

八名

特別要員として左記の会員の協力を得た。

羽商船」は、私立、町立、県立、國立と変遷して参りましたが、一時は皆さんの町の学校であったわけです。古い時代の資料によりますと、町立時代は「鳥羽商船」は鳥羽の儀仗隊を勤めていたと記録されています。町を来訪した要人の警護や「日露戦争」当時には戦死者のための「町葬」に際し、棺を守る役割を果たしたようです。

また、「鳥羽商船」は鳥羽の消防団の役割も果たしていました。火災が発生すると、「手押しポンプ」の動力として学生が召集されたと伝えられます「鳥羽商船」の学生は町の一員として、町の日常生活にも溶け込んでいたわけです。

現在のようになりま

す。どうかよろしくお願ひ致します。

本日は天候にも恵まれ、快適なクルージングが期待されます。乗船受け付け番号による抽選会、「剣山啓助」カルテットによるコンサート等が予定されています。

どうか皆さん、ごくつろぎ下さいますようお願いいたします。有難うございました。

羽商船」は、私立、町立、県立、國立と変遷して参りましたが、一時は皆さんの町の学校であったわけです。古い時代の資料によりますと、町立時代は「鳥羽商船」は鳥羽の儀仗隊を勤めていたと記録されています。町を来訪した要人の警護や「日露戦争」当時には戦死者のための「町葬」に際し、棺を守る役割を果たしたようです。

また、「鳥羽商船」は鳥羽の消防団の役割も果たしていました。火災が発生すると、「手押しポンプ」の動力として学生が召集されたと伝えられます「鳥羽商船」の学生は町の一員として、町の日常生活にも溶け込んでいたわけです。

現在のようになりますと、当時のような鳥羽市民との関わりはありませんが、学寮に在住する学生は鳥羽市民の一員であることは変わりません。卒業後はやはり鳥羽を第二の故郷としてなつかしむことと思われます。

私の調査したところでは、三〇〇名以上の伊勢・志摩在住の女性が「鳥羽商船」卒業生と共に全国に散らばっている模様です。ですから現在でも鳥羽市民と「鳥羽商船」の関係は密接なものがあるわけです。そしてこの関係は「鳥羽商船」が存在する以上永久に続くことがあります。

どうか皆さん、「鳥羽商船」を皆さんの町の学校であるという認識に立つて、従来どおりの暖かい

落合会長挨拶

皆さんお早ようございます。本

日は朝早くからお出かけ下さいまして誠に有難うございました。「鳥羽商船高等専門学校創基一二〇周年記念、鳥羽市民招待伊勢湾クルージング」にご参加ご苦労様でござります。私ども「鳥羽商船」の卒業生は、一二〇年に亘って鳥羽市民に大変お世話になりました。すべての卒業生は、鳥羽を第一の故郷として、世界各地に展開して参りました。

何かお礼をいろいろと検討しましたが、「鳥羽商船」らしく、「鳥羽市民招待伊勢湾クルージング」を開催することになりました。「鳥



クルージングを楽しむ招待客



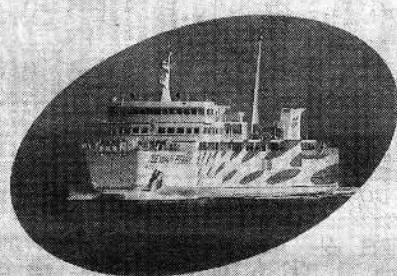
抽選会風景



バンド演奏に聞きいる招待客

120th

Anniversary
of
Toba National College
of Maritime Technology



鳥羽商船高等専門学校創基120周年記念
鳥羽市民招待伊勢湾クルージング

ISEWAN CRUISING PARTY

開催日：平成13年11月10日（土）
使用船：伊勢湾フェリー“鳥羽丸”

主催

鳥羽商船同窓会

協賛 伊勢湾フェリー（株）

平成一三年度 第一回支部長・ 本部理事会議

平成一三年九月一七日、商船学科卒業式当日、母校の「百周年記念資料館」内会議室において開催され、役員二八名が出席した。議題は「創基一〇〇周年記念行事」が中心で、会長が提出された祝賀会の予算案について検討された。祝賀会の収容人員についての検討課題。

会長より、二回に亘る協議内容が報告され、祝賀会の会場の広さから、会員の出席数を最大二五〇名、来賓を五〇名に限定する必要に迫られていることが指摘された。

「鳥羽国際ホテル」のコンベンション・ホール「海城」の収容人員は、立席で三〇〇名、テーブル席で最大二二〇であり、同窓生の出席予定者が二〇〇名程度に落ちきことが望まれる旨報告された。

同窓会では、来賓を三〇名程度に押さえたいと思いつくが、会長と母校側との協議においても、これが焦点になつたが、実質を重んずる同窓会と体面を重んずる母校側とはすり合わせが困難であるように思われた。

母校の場合は、昭和五六年に盛大に「創基一〇〇周年記念行事」を挙行しており、今回は若干トランを下げる、他の「商船高専」や

「工業高専」については、事務部長まで招待する必要がないではないいかという会長の意見と、学校の会長の苦心の程が推察された。平成一三年度本部総会において、会長が五千円の寄付会員については、三千五百円程度のパート券を購入してもらつてはという会長提案については、一部の支部から苦情があつたことから、このような問題が発生したのである。

祝賀会には一人当たり一万元以上の経費が掛かるところから、会長はパーティ券を提案されたわけであるが、寄付した会員の祝賀会にも招待されて当然という気持ちも理解しなければならない点がつらかった。

結局、五千円以上の寄付会員全員に招待状が発送されたが、果たして期日までに返事がくるかが問題となつた。

二、イベントについて

祝賀会のイベントについて会長念して、一二〇年間お世話になつた鳥羽市民に何かお礼の催しをしたいという意見が出て、一案として伊勢湾フェリーによる「鳥羽市民招待クルージング」があげられ、本部において検討することにて、伊勢湾フェリー勤務の金田理事に一任することについては、後日辞退したい旨報告があり、会長より直接浜口バン

ド宛手紙で了承したと伝えられた。イベントの選定については、余裕をもつて対処していたので、何ら支障は起きたなかった。

三、鳥羽市内ハローにおける展示について

本部の松本暢生理事の提案により、鳥羽市内ハロー内催し会場において、校長「近藤真琴」先生と母校に関する展示を行なつたらどう提案があり、満場一致で承認され、期日は一〇月一五日から二二日であることが報告された。早速展示の内容について検討され、本部において準備することとなつた。また展示のタイトルについては、「鳥羽商船 明治の教育界の先達・校祖 近藤真琴翁 生誕一七〇年記念」皆さんと共に歩んで一二〇〇年」と決定し、アレンジについてはハローに一任することとなつた。

この展示については、母校側の協力(資料提供)と伊勢・志摩支部在住会員の協力が提案され了承された。

七、母校の法人化

高等専門学校の法人化については、国立大学の法人化が終了してからというのが一般的見方であったが、文部科学省の方針では平行して行われることになった。しかし、大学のように個々に法人化されるか、グループ毎に法人化されるかは明確ではないが、高専の特色を反映させるという方針である。

八、京浜会館問題

以前から教育施設としての活用を母校に要請しているが、京浜支部から、施設の老朽化が目立ち、改修には相当額の費用が必要なことから、同窓会はこの問題について熟慮を要する旨文書で提言があつたことが報告された。京浜会館問題は種々の思惑が絡み、同窓

とが承認された。詳細が決定次第各支部長宛報告する旨の本部案が了承された。

五、支部通信費補助の増額

京浜支部より支部通信費補助の増額について文書で提案があつたことから、今年度については、とりあえず各支部とも増額することとされ、来年度予算についても支給された。来年度予算については考慮することで了承された。

六、同窓会支部活動の記録整理

会長より、支部の活動状況を最近の五年間について整理し、同窓会八〇年記念誌の資料として残す作業を始めて欲しい旨要請があつた。そのための予算措置を考えたと提案された。

七、副会長

S 22 N	根本 明
S 24 N	待井 信一
S 33 N	片山 勝則
S 36 N	松浦 肇
S 27 E	斎藤 隆
S 27 E	千々波天信

八、会長

S 19 E	下村甚一郎
S 19 E	京浜 田中 三郎
S 42 N	京浜 静岡
S 26 E	堀三矢之助
S 42 E	竹川 俊幸
S 37 N	中澤 昌信
S 33 N	菅原 昌男
S 32 N	奥 正夫
S 30 E	古川 昭一
S 26 N	伊勢志摩 松本 暢生
S 42 N	伊勢志摩 伊勢志摩
S 38 N	伊勢志摩 伊勢志摩
S 44 E	伊勢志摩 伊勢志摩
S 47 E	伊勢志摩 伊勢志摩
S 53 E	伊勢志摩 伊勢志摩
中村 俊輔	中村 俊輔

出席者

九、会の意見が取り上げられないところに悩みがある。

会の意見が取り上げられないところに悩みがある。

十、会の意見が取り上げられないところに悩みがある。

会員の表彰

S/12 E 山下 健作会員
19/E 山下 健作会員

支部だより

京浜支部

支部長 田中 三郎

同窓生及び京浜支部の皆様その後如何お過ごしでしょうか。

今回の支部だよりでは、(一)月九日に開催されました「京浜支部総会」のトピックスを報告させて頂きます。

〈生涯青春の恩師〉

総会には佐藤学校長及び佐橋事務部長と共に恩師であられる茂在元教官・飯島元学校長もご出席されました。茂在先生は相変わらずお元気なスピーチで会場を沸かせ、飯島先生からはユーモアに富んだスピーチがありました。お元気で活躍される恩師の姿に拍手が送られました。

(逞しき平成卒業生)

総勢六名の出席者の中でひと

三重県漁業協同組合連合会の代表理事会長として長年に亘って三重県の漁業振興に貢献された功績に対し表彰されたものです。心からお祝い申し上げます。

静岡支部

支部長 堀三矢之助

きわ輝いたのは平成年度に卒業した同窓生六名(内、女子同窓生二名)の若者達でした。今回出席の最年長同窓生坂口大先輩(昭和三年卒)はひ孫のようなくる同窓生に囲まれ連綿と継承される鳥羽商船に目を細めています。同窓会青年部と自任する若者達は、「来年の支部総会には二ヶタの出席者」と盛り上がっていました。

今年の支部だよりでは、(一)月九日に開催されました「京浜支部総会」のトピックスを報告させて頂きます。

〈真心の支部会費〉

「総会には出席出来ませんが頑張つて下さい」等の通信文に添えられた支部年会費を約二十五〇名の方々から振込んで戴きました。ありがとうございました。乗船中であつたり遠隔地居住であつたり様々な事情で出席できなかつた皆様からの真心を支部同窓会運営に活用させて頂きます。

◇九月十七日 第三十九回商船学科卒業証書授与式

航海コース 十二名中、賀茂村安良里の原田大輔君が卒業し(株)上組運行部船舶課(名古屋)に就職しました。

名古屋支部

支部長 竹川 俊幸

年々他県からの入学生が少なくなっていますが、今回の卒業生

として名古屋港に入港しました。一月一八日、一般公開の練習船鳥羽丸も航海実習の一環

として、平成一二年もまもなく終わろうとしておりました。今年後半はアメリカの同時多発テロに始まり、今

遅れの一月一七日には母校の練習船鳥羽丸も航海実習の一環

月並みな言葉ですが、月日の経つのは早いもので、七月二十日の第八回静岡支部総会より早五ヶ月になりますが、まだ支部会報にも手をつけていない状態で、心ある会員諸氏には、やきもきされてい

ることと申し訳なく思つております。さて、静岡支部としての独自な行動等は七月以来何もありませんが、次の本校での行事に支部長として参加致しました。(詳しくは同窓会報を参照下さい)

一、平成一二年一月一六日、名古屋港管理組合発足五〇周年記念行事として航海訓練所の日本丸、海王丸が全国商船高専の実習生航海訓練中、名古屋港に招かれ、ガーデン埠頭に接岸しました。両船が同時に停泊するの

には京浜支部より二二名の方々が出席され、出席された皆様は其れに懐かしき友との再会交流に目を輝かせ樂しき一時を過ごしていました。

◇十一月九日 創基一二〇周年記念式典・同祝賀会 静岡支部からは、八名出席しましたが、ゆつくり話もできず失礼致しました。

一、母校創基一二〇周年記念式典 平成一二年九月一七日 支部長及び役員出席

には、それぞれの進路先で精一杯頑張つて欲しいと思います。祝賀パーティに引き続き平成十一年度第二回支部長・本部理事会議出席。

名古屋支部今年度後半の活動報告 一、母校卒業式(商船学科) 平成一二年九月一七日 支部長及び役員出席

が、それぞれの進路先で精一杯頑張つて欲しいと思います。

祝賀パーティに引き続き平成十一年度第二回支部長・本部理事会議出席。

名古屋支部今年度後半の活動報告 一、母校卒業式(商船学科) 平成一二年九月一七日 支部長及び役員出席

皇太子妃雅子様の出席という日本国中に明るさを、感動を、希望を与えていただき、来る新しい年の励みとなる事と思います。

名古屋支部今年度後半の活動報告 一、母校卒業式(商船学科) 平成一二年九月一七日 支部長及び役員出席

催された創基一二〇周年記念行事には京浜支部より二二名の方々が出席され、出席された皆様は其れに懐かしき友との再会交流に目を輝かせ樂しき一時を過ごしていました。

には京浜支部より二二名の方々が出席され、出席された皆様は其れに懐かしき友との再会交流に目を輝かせ樂しき一時を過ごしていました。

には京浜支部より二二名の方々が出席され、出席された皆様は其れに懐かしき友との再会交流に目を輝かせ樂しき一時を過ごしていました。

者を得て開催された。

内容は毎年同じなので省略するが、特徴的な点を拾うと、下呂では昭和六三年に一度開いており、十八人の出席者があつたが、十三年後の今日は当時の約半分に減少した。

今回が二回目である。その時は三十八人の出席者があつたが、十三年後の今日は当時の約半分に減少した。

最近の傾向として、本人出席が二十人をきるようになつたことである。中京地区で開催する場所を探すのは困難となつたが、明

年は浜名湖畔で開催する予定である。

出席者氏名(順不同)

山本醇平・角千明・裏山惣一・渡邊隆・桜田保・山本太郎・本橋喜久次・間宮金一・長谷川俊治・榎本正・山下富三・浅野和昭・井村安雄・右高昭二・山内末夫・諸岡清吉

夫人

右高・榎本・山本太郎夫人・山下計二十人

S 31 年(本科航海科) OB会(桑嶋 収平)

平成13年度

**S 31 年(本科航海科)
OB会(桑嶋 収平)**

(エクシブ鳥羽一一月九一一〇日)

母校創立二十周年記念の式典参列を機会に、卒業後初のクラス会を呼びかけたのは夏の終り。結局、間際のドタキヤン三名以外に六名が集合、懐かしくも年輪の数だけ貴重な出た往年の青年がわいわいと昔に帰つて、楽しいひと時を過ごしました。

局、間際のドタキヤン三名以外に六名が集合、懐かしくも年輪の数だけ貴重な出た往年の青年がわいわいと昔に帰つて、楽しいひと時を過ごしました。

出来れば皆が集まる事が願いで

したが、諸般の事情も重なり、次回は場所を代えての多数の参加を願つて散会となりました。

九日朝には、故山門校長の墓標

(鳥羽市済生寺)に参拝。新旧変化の鳥羽市内を感慨深く心にとめ

て、夫々の帰途に着きました。

旧友が笑顔で集う鳥羽の碧

宴がひびく秋の心に

参加者は荒井宣靖・来栖利之・

坪田順雄・桑嶋收平・森嶋彪雄、

柳谷暁の諸氏。

次回は現在未定。但し都合つき

次第の連絡となります。

今後の活動予定を一週間後の「ルール」「ポジショニング」を選手で完全に把握し試合中無駄なペナルティや動きをなくする。

①現役の学生のラグビーに対する熱意が測れない。

熱意があるのなら、OB会として毎土曜日にコーチを引き受ける体制は準備できる。

②今年の成長は「伊勢工業の岡監督」に委ねたことにある。

今後も年間を通して「コーチ」「合同練習」「練習試合」をお願いしたい。

③ただ心配されるのは、「岡監督」と「OB」の指導方法に違いがあると、選手は戸惑う恐れがある。

④一二月に「岡監督」「OB」を交えて「新メンバーのポジション決定」と短期（一週間・一ヶ月）中期（三ヶ月間）の練習方法を監督に伝授して頂く。そして、練習後「OB」から「ラグビーに対する心構え」の話をする。

⑤現役を退いた五年生は専任コーチをお願いしたい。月～金の指導をして頂く。

⑥来春はクラブの勧誘を強化し、指導学生の清水くんや通学生で有望な新人を発掘し部員数を最盛期にする。

大阪道頓堀松竹座の裏南側ダイナムス（会場はS56N池田龍悟の店）で営業十六時～三時 会員の皆さんも一度ご来店を）

①現役の学生のラグビーに対する熱意が測れない。

熱意があるのなら、OB会として毎土曜日にコーチを引き受ける体制は準備できる。

②今年の成長は「伊勢工業の岡監督」に委ねたことにある。

今後も年間を通して「コーチ」「合同練習」「練習試合」をお願いしたい。

③ただ心配されるのは、「岡監督」と「OB」の指導方法に違いがあると、選手は戸惑う恐れがある。

④一二月に「岡監督」「OB」を交えて「新メンバーのポジション決定」と短期（一週間・一ヶ月）中期（三ヶ月間）の練習方法を監督に伝授して頂く。そして、練習後「OB」から「ラグビーに対する心構え」の話をする。

⑤現役を退いた五年生は専任コーチをお願いしたい。月～金の指導をして頂く。

⑥来春はクラブの勧誘を強化し、指導学生の清水くんや通学生で有望な新人を発掘し部員数を最盛期にする。

⑦練習試合を豊富にとつて「ルール」「ポジショニング」を選手で完全に把握し試合中無駄なペナルティや動きをなくする。

世話人の今後の五ヵ年計画は等が話し合われた。

平成一四年 鈴鹿高専に勝ち東海地区の決勝に進出

平成一五年 東海地区で豊田高専に勝ち、北陸地区にも勝ち念願の全国大会出場

平成一六年 全国大会一回戦突破

平成一七年 全国大会決勝進出

平成一八年 全国大会優勝

と目標をでっかく掲げております。

また、ラグビー以外のバッカアップとして

①上級生は下の子に対して勉強や試験対策を指導する事をOBからお願いする。

（ラグビーが勉強の妨げにならない証拠を学校側に示す）

②その上で、「試験前二週間の部活禁止」という規則の改正を学校側に強く要望する。

③商船学科の学生で海上勤務を希望するラグビー部員には「二級海技士筆記試験」「一級海技士筆記試験」の合格までの指導を（現役学生の合格者の協力の下）する。

④更に「ラグビー部員」に対しても就職の斡旋もする。

等を計画しています。

最期に、現役ラグビー部員には「ラグビー」を通して「OB会の

最大限に活用し、安心して「ラグビー」に精進して頂きたい。

また、東海地区の「伏見工業」「釜石」と言われる位「ラグビー部」を強くなり、地域のスポーツ振興の核として学校の人気が更に高まり、ラグビーによる大学進学や「独立

石」と言われる位「ラグビー部」を強くなり、地域のスポーツ振興の核として学校の人気が更に高まり、ラグビーによる大学進学や「独立

平成一三年一月一二日 世話人一同

（紙面の関係で簡略に記す）

◎体育大会 ○第三回東海地区国立高専体育大会は、陸上競技が六月三〇日（土）～七月一日（日）、その他の競技が七月七日（土）～八日（日）、ラグビーが一〇月二一日（日）、種目別に各地で開催され、次の上位成績を収めた。

陸上

男子走高跳 一位 M4 岡野 泰之

女子走高跳 一位 M4 岡野 泰之

空手

個人戦 一位 S4 小林 京一

水泳

女子五〇mバタフライ 一位 S4 海保 明美

○カッター巡航

恒例のカッター巡航が、八月四日（土）～六日（月）にかけ、四日市港管

立法人問題」を楽々クリヤーする武器になれば幸いです。

OBの皆様これからもご支援、ご指導の程よろしくお願ひ致します。

平成一四年一月一二日 世話人一同

（紙面の関係で簡略に記す）

◎公開講座

本年も、次の公開講座が社会人・中学生を対象に実施されました。

○ワープロ入門

七月九日（月）～十三日（金）、鳥羽市の年輩者七名受講。

○表計算ソフト入門

七月三〇日（月）～八月三日（金）、鳥羽市の五〇代の女性二〇名受講。

○楽しいロボット作り

八月一日（水）～三日（金）、伊勢志

学校だより

（平成一三年七月～一月）

鳥羽商船カッター巡航 参加学生ホームスティ一覧

受入先	参 加 者			性別	
受入者名	卒業学科等	学年	学 科	姓 名	性 别
栗栖 利之 笠松 伴 [協力]	昭和31年 航海学科卒 昭和60年 航海学科卒	4 4 5 5	航海 航海 航海 航海	大谷 高野 鯖戸 吉田	也一政 勝博
片山 勝則 中澤 昌信 相良 球一 [協力]	昭和33年 航海学科卒 昭和37年 航海学科卒 平成6年 航海学科卒	4 5 3 3 3	航海 航海 航海 機関	渡辺 小野 佐々木 寺美帆	緒奈 章之喜 孝友
名倉 勝 山村 由則 伊達 幸博	昭和38年 航海学科卒 昭和39年 航海学科卒 昭和39年 機関学科卒	3 5 3 5 3	航海 航海 航海 機関	梅村 梅松 平瀬 間島 中川 浩二郎	里恵希 智亞利 崇一郎
坂田 安吉 待井 健司 [送迎]	昭和42年 航海学科卒 平成2年 航海学科卒	5 5 5	航海 電子	念佛 前川	夫太穂
杉本 忠明 谷水 一隆 渡辺 宏明	昭和55年 航海学科卒 昭和56年 航海学科卒 平成5年 航海学科卒	5 4 3	航海 航海 航海	小山 橋本 牛田 横田	輔慶
		3	航海	城内 塩田	大輔

摩の中学生一四名受講。
○インターネットの世界
○一月一日(水)～四日(土)、伊勢・志摩の中学生一七名受講。

○I・T講習
鳥羽市主催で本校教官指導の一回四～六日間で合計六回実施。

I・T講習は五月～九月にかけ、
八月八日(火)の午後、小学生四二名と先生他二九名が乗船して、鳥羽湾クルージングを実施。

一九月二十四日(月)～二八日(金)、鳥羽市の五〇代の市民一二名受講。
○船と海と生活(3)～船の安全～
一〇月二日～二三日の毎火曜日に船の安全についての講義と二七名が受講。

○伊勢湾を実感しましょ
う

日(土)の「鳥羽丸」体験航海に社会人七名が受講。

一月三日(土)～四日(日)、五一六

十代の男女九名が、「鳥羽丸」体験航海をして蒲郡港で一泊。
なお、公開講座ではないが、次の二航海が「鳥羽丸」で実施された。十代の男女九名が、「鳥羽丸」体験航海をして蒲郡港で一泊。

○I・T講習
鳥羽市主催で本校教官指導の一回四～六日間で合計六回実施。

I・T講習は五月～九月にかけ、
八月八日(火)の午後、小学生四二名と先生他二九名が乗船して、鳥羽の二航海が「鳥羽丸」で実施され学校PRに務めました。

○子供環境会議
八月八日(火)の午後、小学生四二名と先生他二九名が乗船して、鳥羽の二航海が「鳥羽丸」で実施され学校PRに務めました。

○練習船日本丸・海王丸見学会
一月十七日(土)～一九日(月)、学生二一名と指導教官四名が乗船して名古屋港を訪問。二八日(日)には

○各種コンテストへの挑戦
○ホンダエコノパワー燃費競技中部大会
七月一五日(日)、岡崎市で開催され、M科の二チームが出場しましたが、入賞できなかった。

○第二回全国高等学校I・T・簿記選手権大会
七月二〇日(金)、三重県教育会館で開催され、出江幸重教官指導のI・川添・楠・高田・村山、I・矢形の五名がI・T部門の団体戦で見事県内優勝し、個人戦でも二位以下五人全員が入賞しました。

○ソーラー＆人力ボートレース全日本選手権大会
九月一日(土)～二日(日)、浜名湖で開催され、一周スラロームレース人力ボート部門・クラスBに出場したSN5倉田・濱田・平瀬・前川の四名が見事、優勝しました。

○全国高専第一回プログラミングコンテスト
一〇月二三日(土)～一四日(日)、鶴岡市で開催され、コンテンツ部門の商船学科N・E主任と船機長・一航が、名鳥会主催の晩餐会に招待をされると共に、上組勤務のH12N内藤真世氏・廣田泰子氏・H13E福山恵氏の三女性から学生にジユースをさし入れていただきたい。重ねて、鳥羽丸の入出港に際し、お世話になりました名古屋港管理組合のOBの方々にお礼申上げます。

○進学説明会
九月二二日(土)・二三日(日)、県下の中学校生徒及び保護者と先生を対象に進学説明会が実施され、両日で六三校の二四四名が参加しました。

○審査委員賞(富田賞一三位相当)
I・2の五名の学生は全国大会特別審査委員賞(富田賞一三位相当)を受賞しました。また、出江幸重教官指導のI・2の五名の学生は全国大会特別審査委員賞(富田賞一三位相当)を受賞しました。

○東海北陸地区ロボットコンテスト
トは、一〇月二二日(日)、豊田市で開催され、M科の二チームが出場しましたが、入賞できなかった。

○編入学試験
八月一七日(金)、学力検査が実施され、熊本県立熊本工業高校・機械科卒業見込の富田英次君が、M科四年に過去最高点で合格したが、後日、本校入学を辞退した。

○第二回全国高等学校I・T・簿記選手権大会
七月二〇日(金)、三重県教育会館で開催され、出江幸重教官指導のI・川添・楠・高田・村山、I・矢形の五名がI・T部門の団体戦で見事県内優勝し、個人戦でも二位以下五人全員が入賞しました。

○ソーラー＆人力ボートレース全日本選手権大会
九月一日(土)～二日(日)、浜名湖で開催され、一周スラロームレース人力ボート部門・クラスBに出場したSN5倉田・濱田・平瀬・前川の四名が見事、優勝しました。

○全国高専第一回プログラミングコンテスト
一〇月二三日(土)～一四日(日)、鶴岡市で開催され、コンテンツ部門の商船学科N・E主任と船機長・一航が、名鳥会主催の晩餐会に招待をされると共に、上組勤務のH12N内藤真世氏・廣田泰子氏・H13E福山恵氏の三女性から学生にジユースをさし入れていただきたい。重ねて、鳥羽丸の入出港に際し、お世話になりました名古屋港管理組合のOBの方々にお礼申上げます。

○進学説明会
九月二二日(土)・二三日(日)、県下の中学校生徒及び保護者と先生を対象に進学説明会が実施され、両日で六三校の二四四名が参加しました。

○審査委員賞(富田賞一三位相当)
I・2の五名の学生は全国大会特別審査委員賞(富田賞一三位相当)を受賞しました。また、出江幸重教官指導のI・2の五名の学生は全国大会特別審査委員賞(富田賞一三位相当)を受賞しました。

○クリーンキャンパス活動
九月二二日(水)、午後三時から約一時間、一～三年の学生と教職員で校内美化・除草作業を実施した。今年は、低学年だけに限定したのと、草刈りは職員だけが行い、学生は草とゴミ集めのみを行った。

又、九月一一日(火)と一一月五日(月)の両日、落合同窓会長が手配した杉の木園による近藤真琴翁碑周辺の除草作業が行われ、S科卒業式と一二〇周年記念行事に備えた。

◎講演会
 ○七月一一日(水)、「先輩に聞く」と題し、次の三名のOBに各三〇分間、講演していただきました。

S 48 E 神子 功
 (前川製作所関西システムサービス株代表取締役)
 H 6 N 池永 強

H 10 I 大谷謙勝
 (日正汽船株二等航海士)

寄付金・同窓会会費納入一覧

至自
 平成十三年七月一日
 平成十三年十一月二二日

寄付金

S 16 尾崎 幸平 四、〇〇〇円

S 18 青木佐加男 二、五〇〇円

S 28 中村 研一 二〇、〇〇〇円

計 五三、〇〇〇円

S 18 岸 望 一、〇〇〇円

S 19 大裏山 惣一 二、〇〇〇円

S 21 今磯貝禮次郎 二、〇〇〇円

S 22 田村 春辰夫 二、〇〇〇円

S 26 濱口 宰 四、〇〇〇円

S 26 神澤 重司 二、〇〇〇円

S 26 伊勢湾フェリー(株) 三〇、〇〇〇円

伊勢湾フェリー(株) 一〇、〇〇〇円

四日市海運株 二〇、〇〇〇円

中井 智子 (近藤真琴翁子孫) 三〇、〇〇〇円

内藤 一〇、〇〇〇円

坂平吾 一〇、〇〇〇円

阪本 幸男 五、〇〇〇円

大西 俊男 五、〇〇〇円

山田 英文 五、〇〇〇円

菅沼 延之 一〇、〇〇〇円

三〇、〇〇〇円

成田寛太郎 一〇、〇〇〇円

中野 正義 一〇、〇〇〇円

戸塚 一男 一〇、〇〇〇円

澤谷 嶽 一〇、〇〇〇円

宮澤 錠多 一〇、〇〇〇円

曾和 聖一 一〇、〇〇〇円

山中 久雄 一〇、〇〇〇円

太田 直昭 一〇、〇〇〇円

横井 英樹 一〇、〇〇〇円

鈴村 雅明 一〇、〇〇〇円

河田 正和 一〇、〇〇〇円

内藤 文司 一〇、〇〇〇円

丸山 和繁 一〇、〇〇〇円

岡室 孝美 一〇、〇〇〇円

太田 淳幸 一〇、〇〇〇円

高浦 義一 一〇、〇〇〇円

木学 忠雄 五、〇〇〇円

中本 岳助 五、〇〇〇円

濱口 其宰 五、〇〇〇円

黒田 章三郎 一〇、〇〇〇円

塗山 順三 一〇、〇〇〇円

塚越 健一 五、〇〇〇円

野呂 卓司 一〇、〇〇〇円

竹田 性嗣 一〇、〇〇〇円

荒井 憲靖 一〇、〇〇〇円

橋本 博行 五、〇〇〇円

下川 公一 五、〇〇〇円

中島 紀男 五、〇〇〇円

石崎 清之 五、〇〇〇円

佐藤 紀男 五、〇〇〇円

中島 章 一〇、〇〇〇円

野口 操 五、〇〇〇円

戸塚 勝 一〇、〇〇〇円

澤谷 嶽 一〇、〇〇〇円

宮澤 錠多 一〇、〇〇〇円

曾和 聖一 一〇、〇〇〇円

山中 久雄 一〇、〇〇〇円

太田 直昭 一〇、〇〇〇円

横井 英樹 一〇、〇〇〇円

鈴村 雅明 一〇、〇〇〇円

河田 正和 一〇、〇〇〇円

内藤 文司 一〇、〇〇〇円

丸山 和繁 一〇、〇〇〇円

岡室 孝美 一〇、〇〇〇円

太田 淳幸 一〇、〇〇〇円

高浦 義一 一〇、〇〇〇円

木学 忠雄 五、〇〇〇円

中本 岳助 五、〇〇〇円

濱口 其宰 五、〇〇〇円

黒田 章三郎 一〇、〇〇〇円

塗山 順三 一〇、〇〇〇円

塚越 健一 五、〇〇〇円

野呂 卓司 一〇、〇〇〇円

竹田 性嗣 一〇、〇〇〇円

荒井 憲靖 一〇、〇〇〇円

橋本 博行 五、〇〇〇円

下川 公一 五、〇〇〇円

中島 紀男 五、〇〇〇円

野口 操 五、〇〇〇円

戸塚 勝 一〇、〇〇〇円

澤谷 嶽 一〇、〇〇〇円

宮澤 錠多 一〇、〇〇〇円

曾和 聖一 一〇、〇〇〇円

山中 久雄 一〇、〇〇〇円

太田 直昭 一〇、〇〇〇円

横井 英樹 一〇、〇〇〇円

鈴村 雅明 一〇、〇〇〇円

河田 正和 一〇、〇〇〇円

内藤 文司 一〇、〇〇〇円

丸山 和繁 一〇、〇〇〇円

岡室 孝美 一〇、〇〇〇円

太田 淳幸 一〇、〇〇〇円

高浦 義一 一〇、〇〇〇円

木学 忠雄 五、〇〇〇円

中本 岳助 五、〇〇〇円

濱口 其宰 五、〇〇〇円

黒田 章三郎 一〇、〇〇〇円

塗山 順三 一〇、〇〇〇円

塚越 健一 五、〇〇〇円

野呂 卓司 一〇、〇〇〇円

竹田 性嗣 一〇、〇〇〇円

荒井 憲靖 一〇、〇〇〇円

橋本 博行 五、〇〇〇円

下川 公一 五、〇〇〇円

中島 紀男 五、〇〇〇円

野口 操 五、〇〇〇円

戸塚 勝 一〇、〇〇〇円

澤谷 嶽 一〇、〇〇〇円

宮澤 錠多 一〇、〇〇〇円

曾和 聖一 一〇、〇〇〇円

山中 久雄 一〇、〇〇〇円

太田 直昭 一〇、〇〇〇円

横井 英樹 一〇、〇〇〇円

鈴村 雅明 一〇、〇〇〇円

河田 正和 一〇、〇〇〇円

内藤 文司 一〇、〇〇〇円

丸山 和繁 一〇、〇〇〇円

岡室 孝美 一〇、〇〇〇円

太田 淳幸 一〇、〇〇〇円

高浦 義一 一〇、〇〇〇円

木学 忠雄 五、〇〇〇円

中本 岳助 五、〇〇〇円

濱口 其宰 五、〇〇〇円

黒田 章三郎 一〇、〇〇〇円

塗山 順三 一〇、〇〇〇円

塚越 健一 五、〇〇〇円

野呂 卓司 一〇、〇〇〇円

竹田 性嗣 一〇、〇〇〇円

荒井 憲靖 一〇、〇〇〇円

橋本 博行 五、〇〇〇円

下川 公一 五、〇〇〇円

中島 紀男 五、〇〇〇円

野口 操 五、〇〇〇円

戸塚 勝 一〇、〇〇〇円

澤谷 嶽 一〇、〇〇〇円

宮澤 錠多 一〇、〇〇〇円

曾和 聖一 一〇、〇〇〇円

山中 久雄 一〇、〇〇〇円

太田 直昭 一〇、〇〇〇円

横井 英樹 一〇、〇〇〇円

鈴村 雅明 一〇、〇〇〇円

河田 正和 一〇、〇〇〇円

内藤 文司 一〇、〇〇〇円

丸山 和繁 一〇、〇〇〇円

岡室 孝美 一〇、〇〇〇円

太田 淳幸 一〇、〇〇〇円

高浦 義一 一〇、〇〇〇円

木学 忠雄 五、〇〇〇円

中本 岳助 五、〇〇〇円

濱口 其宰 五、〇〇〇円

黒田 章三郎 一〇、〇〇〇円

塗山 順三 一〇、〇〇〇円

塚越 健一 五、〇〇〇円

野呂 卓司 一〇、〇〇〇円

竹田 性嗣 一〇、〇〇〇円

荒井 憲靖 一〇、〇〇〇円

橋本 博行 五、〇〇〇円

下川 公一 五、〇〇〇円

中島 紀男 五、〇〇〇円

野口 操 五、〇〇〇円

戸塚 勝 一〇、〇〇〇円

澤谷 嶽 一〇、〇〇〇円

宮澤 錠多 一〇、〇〇〇円

曾和 聖一 一〇、〇〇〇円

山中 久雄 一〇、〇〇〇円

太田 直昭 一〇、〇〇〇円

横井 英樹 一〇、〇〇〇円

鈴村 雅明 一〇、〇〇〇円

河田 正和 一〇、〇〇〇円

内藤 文司 一〇、〇〇〇円

丸山 和繁 一〇、〇〇〇円

岡室 孝美 一〇、〇〇〇円

太田 淳幸 一〇、〇〇〇円

高浦 義一 一〇、〇〇〇円

木学 忠雄 五、〇〇〇円

中本 岳助 五、〇〇〇円

濱口 其宰 五、〇〇〇円

黒田 章三郎 一〇、〇〇〇円

塗山 順三 一〇、〇〇〇円

塚越 健一 五、〇〇〇円

野呂 卓司 一〇、〇〇〇円

竹田 性嗣 一〇、〇〇〇円

荒井 憲靖 一〇、〇〇〇円

橋本 博行 五、〇〇〇円

下川 公一 五、〇〇〇円

中島 紀男 五、〇〇〇円

野口 操 五、〇〇〇円

戸塚 勝 一〇、〇〇〇円

澤谷 嶽 一〇、〇〇〇円

宮澤 錠多 一〇、〇〇〇円

曾和 聖一 一〇、〇〇〇円

山中 久雄 一〇、〇〇〇円

太田 直昭 一〇、〇〇〇円

横井 英樹 一〇、〇〇〇円

鈴村 雅明 一〇、〇〇〇円

河田 正和 一〇、〇〇〇円

内藤 文司 一〇、〇〇〇円

丸山 和繁 一〇、〇〇〇円

岡室 孝美 一〇、〇〇〇円

太田 淳幸 一〇、〇〇〇円

高浦 義一 一〇、〇〇〇円

木学 忠雄 五、〇〇〇円

中本 岳助 五、〇〇〇円

濱口 其宰 五、〇〇〇円

黒田 章三郎 一〇、〇〇〇円

塗山 順三 一〇、〇〇〇円

四、五〇〇円	H 8	H 9	H 13	坂本	大鍬	光弘	聖
四、〇〇〇円	H 2	H 4	H 7	河村	深田	拓生	大輔
二、〇〇〇円	H 3	H 5	H 8	西岡	坂村	達也	
二、〇〇〇円	H 5	H 3	H 8	伊藤	由姫	勇樹	
一四、〇〇〇円	H 13	H 13	H 10	坂村	敦		
一〇、〇〇〇円	H 10	H 10	H 8	藤川	公一		
六、〇〇〇円	H 11	H 11	H 9	石川	夏樹		
四、〇〇〇円	H 13	H 9	H 5	井田	康人		
二、五〇〇円	H 13	H 13	H 9	藤森龍太郎	伸人		
二、〇〇〇円	H 6	H 6	H 6	高広	智大		
長谷部真典	西山	西山	良	真知子	勉		
学勤							

卒業生の再就職斡旋

現今の一般社会の不況にも
かかわらず、活躍されている
卒業生の方々から同窓会本部
事務局に求人情報を寄せ
いただき、誠に感謝しています。

ところが、再就職を希望する情報が本部事務局には入り入ってこないため、ミツチに困惑しています。

どうか、若い会員は現在の職場で頑張つていただくのは当然として、もし失業されてしまう場合は、気軽に遠慮なしに本部事務局に再就職希望の連絡をして下さい。

前回の会報(二〇〇一年第一号)で、会員の会費納入につき、機関科の二、〇〇〇円納入欄(P25)が抜けておりました。

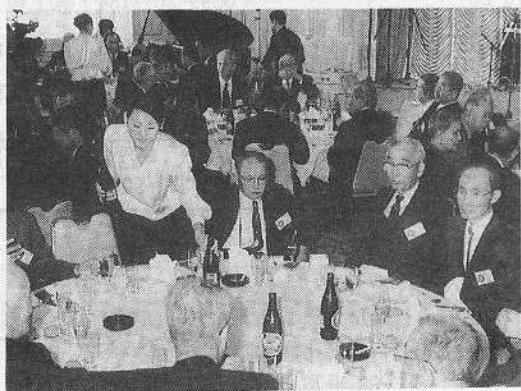
計
八名

九州支部

(15
ページより続く)



石原「攻玉社學園」理事長祝辭



祝賀会風景



現校歌齊唱



会長歓迎の挨拶



コンパニオンも勢ぞろい



九鬼水軍太鼓演奏



イルージョン・マジック「将魔」



天馬鈴若とその一味ショウ



旧校歌斎唱（シニア会員）

会費納入についてお願い

会員数の増加に伴い会報の印刷費・送料が
増加してきました。
会費納入について会員の一層のご協力を
お願いします。

平成14年度総会予告

日時 平成14年6月9日（日）11時30分
場所 鳥羽商船高等専門学校

平成14年4月中旬に案内状を送付します。